令和元年 12 月 6 日

第３学年保護者の皆様へ

横浜市立中川中学校
校　長　　安藤　位彦

令和元年度　横浜市学力・学習状況調査結果のお知らせ

（令和元年 11 月実施：対象学年３年）

令和元年 11 月 7 日（木）に実施されました、「令和元年度 横浜市学力・学習状況調査」の結果について公表いたします。この学力・学習状況調査は、各学年、学級、教科の学習状況を把握することにより、一人ひとりの学習状況をとらえ、教科指導や個に応じた指導を充実させることが目的です。

１．観点別・領域別（分野別）通過率（％）　※通過率とは、正答の割合ととらえてください。

国　　語

観　　点	領　　域	中川中	横浜市平均
話す能力・聞く能力	話すこと聞くこと	78.6%	77.5%
書く能力	書くこと	60.5%	55.1%
読む能力	文学的な文章	67.0%	61.5%
	説明的な文章	58.9%	56.6%
	伝統的な言語文化	65.3%	62.2%
知識・理解・技能	漢字	67.3%	62.4%
	言葉の特徴やきまり	47.4%	45.5%
基礎・基本		63.4%	60.0%
活　　用		60.5%	55.1%

社　　会

観　　点	領　　域	中川中	横浜市平均
思考・判断・表現	歴史	43.0%	38.2%
	公民	54.6%	49.2%
資料活用の技能	歴史	79.0%	72.1%
	公民	59.2%	51.4%
知識・理解	歴史	75.8%	62.4%
	公民	74.5%	67.6%
基礎・基本		73.9%	64.1%
活　　用		51.6%	46.3%

数　　学

観　　点	領　　域	中川中	横浜市平均
数学的な見方や考え方	数と式	**52.6%**	40.9%
	関数	36.2%	27.9%
数学的な技能	数と式	**80.3%**	69.9%
	関数	**80.5%**	68.7%

知識・理解	数と式	**84.3%**	74.1%
	関数	**76.0%**	59.6%
基礎・基本		**81.0%**	70.1%
活　　用		**48.5%**	38.1%

理　　科

観　　点	領　　域	中川中	横浜市平均
科学的な思考・表現	化学変化と原子・分子	82.2%	74.9%
	運動とエネルギー	51.3%	52.0%
	植物の生活と種類	**46.2%**	31.4%
	動物の生活と生物の変遷	63.8%	54.6%
	生命の連続性	**72.2%**	53.7%
観察・実験の技能	身の回りの物質	**70.1%**	57.2%
	運動とエネルギー	*47.5%*	57.7%
	植物の生活と種類	*39.4%*	43.4%
	生命の連続性	73.8%	67.6%
自然事象についての知識・理解	身近な物理現象	56.1%	45.3%
	身の回りの物質	**54.3%**	40.9%
	運動とエネルギー	80.4%	74.6%
	化学変化とイオン	**71.9%**	61.3%
	植物の生活と種類	68.8%	62.3%
	気象とその変化	**67.9%**	55.1%
	生命の連続性	66.1%	56.4%
基礎・基本		67.1%	62.0%
活　　用		**52.8%**	39.4%

英　　語

観　　点	領　　域	中川中	横浜市平均
表現	英文選択	69.9%	61.4%
	部分作文	**44.6%**	23.8%
	作文	**41.2%**	29.2%
理解Ⅰ「聞くこと」	概要理解	76.7%	69.9%
	詳細理解	71.9%	66.7%
理解Ⅱ「読むこと」	概要理解	*54.1%*	55.4%
	詳細理解	80.2%	73.3%
言語に関する知識	文のきまり	**61.8%**	49.9%
基礎・基本		72.2%	63.6%
活　　用		**38.9%**	27.6%

太字は、市平均より１０ポイント以上上回っている項目、*斜体*は、市平均を下回っている項目。

２．各教科の傾向と課題及び今後の取り組みや生活・学習意識調査からみた特徴および今後の学習意識向上のための方策など

各観点、領域の通過率（正答率）からみた場合、ほとんどの観点・領域に関して正答率が市平均値を越えており、おおむね各教科の本校の生徒の学力・学習状況については大変良好だと言えます。とりわけ数学に関しては「基礎・基本」の定着がかなり進んでいると考えられます。また、理科・英語においては「活用」に関する部分についてもよい結果が出ています。基本的な学力をしっかり身に付けていくことはもちろんですが、その基礎・基本を日常の生活に具体的に活用していく力が求められており、このことは本校に限らず今日的な学校教育全般の課題であると言われています。その点からいえば、日々の授業において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてさらに本校の授業改善を心がけていくことが大切であると考えます。

また、「勉強は好きですか」の質問に対しては、市の平均とほぼ差はなく「嫌い」「どちらかというと嫌い」と答えている生徒が本校の調査で約 62％でありました。しかし「学校の授業が分かりやすいですか。」という質問に対しては、81％（約 33.3％が「よくわかる」、47.7％が「だいたいわかる」）の生徒がわかるという回答をし、これは市の平均と比べ 20 ポイントほど良好な結果が出ていることから、本校の授業はわかりやすく進めるよう各教科で工夫されているとらえることができます。

「各教科の学習が好きか」という質問に対して、本校の特徴としては社会科と保健体育に対して特に良好な結果（78.4％）が表れています。全教科で 8 割の生徒が「各教科の学習が好きだ」と感じられるよう、生徒の興味関心を高める授業展開の改善を今後とも課題としていきたいと思います。

「授業ではノートを丁寧に工夫して書いていますか。」（約 90％が「書いている」「どちらかといえば、書いている」）、という良好な結果が出ていますが、「授業では、自分の考えを発表していますか。」（約 62％が「よくしている」「どちらかといえば、している」）という質問に関しては 66.6％と 3 分の 2 ぐらいの生徒にとどまっているため、自分の考えや意見を、根拠をもって発言していく力が求められるところです。「勉強はしなければいけないものであるから、しかたなく学んでいる。」というような、やや主体性を欠く学習への取組がみられる生徒に対しては、「何のために学習するのか」、「学んだことを日常生活にどう活かしていくのか」を考えさせながら、さらに興味関心をもって授業に取り組めるような授業展開を工夫していく必要があります。

３．その他．生活・学習意識調査結果（クロス集計結果を含む）

・横浜市の平均と比べた場合、家庭学習の時間や読書の時間は長く、携帯電話やスマートフォンの利用時間は短くなっています。これは良い習慣であると言え、このことと学力とは大きくかかわっていると考えられます。

「授業では、ノートを丁寧に工夫して書いているか」の質問に対しては、91.8％が良好な回答をしています。このことは、本校の基礎・基本にかかわる学力の高さにかなりの相関関係があると言えます。

・朝食に関してはほぼ 90.5％の生徒が「必ず食べる」「たいてい食べる」と答えていて、そのうち「必ず食べる」という良い食習慣の割合は 76.1％となっています。朝食をとる習慣と学力の相関関係は相当あると言われていますので、家庭での食に関する意識も引き続き高めていただけたらと思います。

・睡眠時間は、17.1％の生徒が 6 時間より少ない睡眠時間でした。適正な睡眠時間を確保している生徒ほど、総合正答率が高くなっているという結果が出ています。

・塾（家庭教師）で勉強している割合は、89.6％と市の平均と比べても通塾率は高く、家庭における教育への関心の高さの一端がうかがわれます。学習時間に関しては、17.6％の生徒が 30 分以下であるため、おそらく学校以外の学習に関しては、通塾に頼っている生徒が多いと思われます。通塾後の帰宅時間を考えるとなかなか難しいとは思いますが、毎日の継続的な家庭学習に課題が残っているようです。

・「スマートフォン等を操作して、インターネットやメール、ＳＮＳをどのくらいしているか。（ゲーム

の時間を除く)」の質問では、2 時間以上操作している生徒が 30.7%います。これは、市の平均が 44.1%に比べると操作時間が短い生徒が多いという結果ですが、これはやはり現代的な課題ととらえられます。クロス集計を見ても、30 分以下の操作時間の生徒の正答率が最も高く、操作時間が長い生徒の正答率は明らかに低いことが表れています。単純に学習時間が少なくなっていることにもつながっていると思われますが、スマートフォンの普及率が高い現状を考えると、家庭においてその利用に関しての約束などが必要だと思われます。

・学校のきまりを守ることに関しての意識は高く 96.8%の生徒が「守っている」「どちらかというと守っている」と答えています。特に「守っている」という回答は約 77%であり、市の平均 63.5%と比べても規範意識に大変良い傾向が見られました。

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対しては約 96.9%の生徒が「そう思う（77.0%)」「どちらかというとそう思う（19.8%)」と答えています。「そう思う」という数値が 100%になっていくような、豊かな心を育てる教育の取組を、学校・家庭などさまざま場面で働きかけしていくことが大切です。

その他様々な調査結果の概要から、ほとんどの生徒が、意欲を持って学習に取り組み、日常生活や学校生活において好ましい生活習慣で落ち着いて日常を過ごしているものと思われ、生活習慣や学習習慣が好ましい状況の生徒においては、正答率も高い結果となっています。全体として市の集計結果と大きな違いは見られませんが、良好な学習・生活習慣は家庭でも裏付けとなる支援態勢が整っているものと思われます。

一方、わずかながら、学習意欲にやや欠けている、家庭学習の時間を十分とっていない、睡眠時間を十分とっていない、朝食をとらないなどの課題を抱えている生徒がいるのも事実です。一人ひとりの生徒について課題を明らかにし、家庭と課題を共有していくことが、子どもたちの一層の成長にとって重要と考えます。

各教科の学習意識調査の結果に関してしっかりと分析しながら、今後の授業改善に努めていきたいと思います。今後とも、学校・家庭・地域の協働を基本に、子どもたちの健全育成を目指していくことにお力をお貸しくださいますようお願いいたします。